

声調（四声）をマスターするために

声調に上達するためには、まず二音節の組み合わせで練習するのが一番良い方法です。皆さんもこんな声調練習用の表を見たことがあるかも知れません。

声調の組み合わせ表

	第一声	第二声	第三声	第四声	軽声
第一声	mā mā	mā má	mā mǎ	mā mà	mā ma
第二声	má mā	má má	má mǎ	má mà	má ma
第三声	mǎ mā	mǎ má	mǎ mǎ	mǎ mà	mǎ ma
第四声	mà mā	mà má	mà mǎ	mà mà	mà ma

この表で合計 20 通りの組み合わせで声調練習をすると、苦手な組み合わせがハッキリします。一番難しいのが「第二声+その他の声調」と「第三声+その他の声調」の組み合わせです。この二つが上手にできない主な理由は「第二声+その他の声調」は第二声の音階が低すぎることで、「第三声+その他の声調」では第三声の音階が高過ぎることです。つまり声調で最初にならった mā・má・mǎ・mà と同じ音階の高低でなければいけないのですが、つつい日本語の音階（中国語より低い）を使ってしまいが不具合の原因です。

しかし、この声調の組み合わせ表のアクセントだけでテキストを音読していると、昔の AI に音読させているような不自然さを感じる人もいます。この不自然さをなくすためには「高一低・強一弱・長一短」という次の段階の応用編のテクニックが必要です。基礎段階の方は無理に自然な話口調を練習するよりも先ず声調の組み合わせ表をマスターしてからのほうが確実に上達します。

2025.7.9